

社会を明るくする運動

# 優秀作品 発表！

社会を明るくする運動啓発の作品募集に参加してくださった、町内在学の小学5年生、中学1年生の皆さんありがとうございました。

●問い合わせ

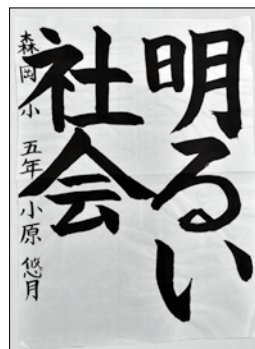
ふくし課 内線124

(敬称略)

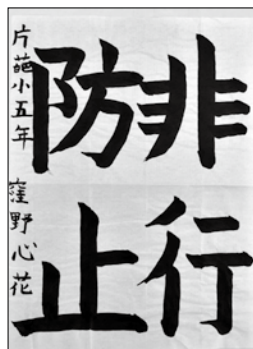


## 小学5年生 習字

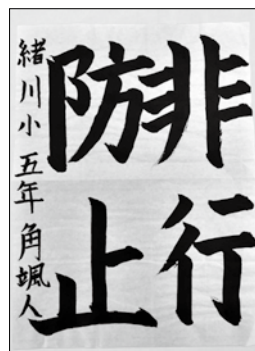
森岡小学校 小原 悠月



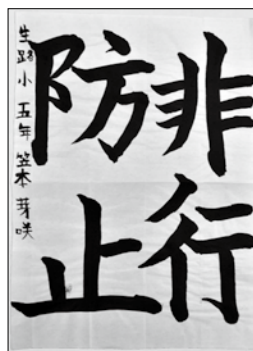
片葩小学校 窪野 心花



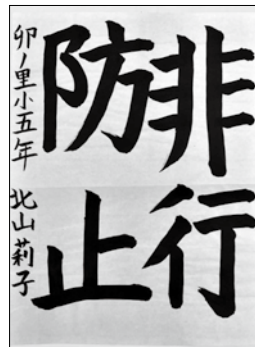
緒川小学校 角 颯人



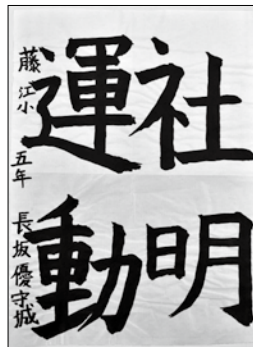
生路小学校 笠本 芽咲



卯ノ里小学校 北山 莉子



藤江小学校 長坂 優守城



## 中学1年生 標語

助け合い「大丈夫？」で広がる輪

東浦中学校 新美 桜矢

心寄せ笑顔がたえない町つくろう

北部中学校 鈴木 ひなた

貯めようよ優しい言葉の貯金箱

西部中学校 増田 夏音

いま、

中学生が

訴えたいこと

●問い合わせ

文化センター ☎(83)9567



## これからの未来を築くために

西部中学校2年 田中 和佳奈

SDGsについて皆さんは知っていますか。

言葉は聞いたことがあるという人は多いかもしれませんが、17の内容をすべて知っている人は少ないのではないのでしょうか。SDGsは日本語に訳すと「持続可能な開発目標」です。未来のために、今世界がすべき目標が17個挙げられています。

私は17の目標の中で「貧困をなくそう」「安全な水とトイレを世界中に」に関心をもちました。

日本の現状は、少子高齢化が進み、働き手が減ってしまい、高齢者に税金が多くなり、多くの借金を抱えています。しかし、子どもは教育を受けることができ、恵まれた国でもありません。それに対し、世界には、子どもが十分な教育を受けることができない、貧困な国もあります。世界では人口が増加傾向にあり、30年後には、世界人口が100億人を超えるという

研究結果があります。

人口増加をプラスに捉えると、経済発展につながるかもしれませんが。しかし、マイナスに捉えると、貧困化がさらに進み、生きていくうえで、最低限必要な食糧さえ確保できない人が増加します。そして、貧困者は、現在、南アフリカをはじめ、世界中に約1.5億人います。

この1.5億人という数は、連日ニュースで見ない日はない、新型コロナウイルスの世界感染者数と同じです。この数字も衝撃ですが、このうち、年間30万人ほどの方が亡くなっています。その多くは、未来を担う子どもで、餓死や水が汚れているために下痢やコレラにかかり、1日で約4000人亡くなっています。私は、この現実を知ったとき、なぜ新型コロナウイルスはこんなにも注目を浴びるのに、貧困や水の問題はあまりニュースで取り上げられないのか不思議に思いました。

私が学校に行っていると、私も、世界のどこかで汚い水を飲み、苦しんでいる人がいるという事実は、変わりません。

汚い水を飲むというのは、今の日本では考えられないことです。公園にはきれいな水の出る水道があります。出かけた先では手をあらうこともできます。自動販売機は街にあふれていて、いつでも必要な飲み物を手に入れることができます。

以前、学校に水筒を持っていくことを忘れたことがありました。口が渴き、お茶が飲みたいなと思いました。世界ではその状況が毎日続いています。想像することしかできませんが、もしもきれいな水がなかったら、私も汚くても目の前にあるものを飲んでいると思います。精神的につらそうです。今日を生きるためには、命を守るためには、やむを得ないのだらうと思います。

これまで、寝る間を惜し

んで自分の一生をかけて、世界を発展させようとした発明家がいる、その人たちは未来を変えてくれました。その人たちのおかげで、今の恵まれた環境があると思います。こんなふうにはできないのは、進化を遂げた人間にしかできないことだと思います。

今、自分ができることは、シャワーや洗い物などの節水、できる範囲での募金にこそがけることです。そうすれば、人々に笑顔が増えて、この世界が少しでも明るく、にぎやかになると思います。そして、1人でも多くの命が救われる世の中にしたいです。





## ストレス社会を生き抜くために

東浦中学校3年 杉原 佑介

2020年4月から改正健康増進法が全面施行され、たばこを吸わない人が煙の被害にあわないように、屋内では原則禁煙となりました。飲食店では、禁煙・分煙のマークが表示され、たばこを吸う人、吸わない人にとつて過ごしやすい環境が整えられることとなりました。

僕は、たばこ自体に対し「嫌いだな」という印象をもっています。ある日、ふと「さまざまな法律があるものの、たばこがいけないのではなく、たばこを吸ってしまうほどのストレスを抱えてしまう現代社会に問題があるのではないか」と考えることができました。もちろん、ストレス解消のしかたはさまざまあります。ストレス解消＝喫煙でありませんが、1つの側面として「ストレス社会と喫煙」の関係があると僕は思います。そのように考えた理由を紹介します。

革、パワハラ、コロナ倒産」などの暗いニュースです。誰かが手を抜いているから、このような暗い状況になっているのか？原因は何なのか？僕は働いていないため、仕事がどんなに大変なものなのか実感できません。それでも自分なりに考えてみると、みんな必死に働いているのではないかと、家族や社会のために尽くしているものの、もしかしたら、ストレスを解消する時間や機会が失われているのかもしれない。せっかくの休みの日でも、新型コロナウイルス感染症予防のために外出できなかつたり、友人と会いたくても、遠慮してしまつたりと、我慢する場面が多いように思えます。先にも述べましたが、僕自身は働いていません。しかし、必死に働いている人こそ、もつと全力でストレス解消をしてよいと考えます。「ストレス解消＝喫煙」という人ばかりではありませんが、ストレス解消の仕方をもう1度見直して

みるとよいのではないかと思います。

ストレス社会と喫煙を考えたもう1つの理由は、保健体育の授業で習った「喫煙による人体への影響」です。たばこに含まれるニコチンという物質は、毒性与依存性があります。「毒性があるのに、なぜ喫煙してしまうのか」「依存している」ということは、意思が弱いということなのか」と考えることがありました。

調べてみたところ、実際に喫煙する人は減っているそうです。減つてはいるものの、厚生省が実施した調査結果によると、男性の年代別喫煙率は、20歳代から50歳代まで、およそ55～58パーセントとなっており、働く世代と一致しています。喫煙の理由はさまざまあると思いますが、確実に人体への影響があります。禁止をすることはできないものの、喫煙のあり方を見直すべきだと思います。

このように、ストレス社会と喫煙を述べてきましたが、僕たち中学生も近い将

来、働くことになります。このストレス社会と向き合い頑張っていくためには、今あるこの中学校生活を一生懸命に過ごしていく必要があります。

コロナ禍で、我慢を強いられることが今でも続いています。部活動や行事に制限があつたり、給食も黙食を続けていたり「感染の恐怖」と「全力を出し切りたいのに出せないもどかしさ」の中で葛藤する日々が続いています。それでも、僕たちは、目の前のことを頑張っています。そして、ストレス社会といわれても、頑張つて働いている人がいます。さまざまな暗いニュースが流れていても、結果としてうまくいかないことがあつたとしても、誰もが一生懸命に自分自身や世の中と向き合っています。だからこそ、シンプルな言葉かもしれないが「頑張ろう」の一言が今こそ必要だと思えます。そのちょっとした励ましの言葉が、人々を勇気づけ、前進させるのだと思います。





## 事故により悲しむ人がいない未来に

北部中学校3年 蛸原 そら

「蜘蛛の巣のようなヒビが入ったフロントガラスに人の毛がからまりつき血液がつく、皆さんはそんな風に死にたいですか」

この言葉は交通安全教室に来てくださった愛知県警自転車部隊「R-Force」の隊員の方からの問いかけです。私はこの言葉を聞いたとき、恐怖と不安から心臓の音が大きくなるのを感じました。その言葉は私に現実味を覚えさせたからです。自転車通学をしているとき、ときどきヒヤリとすることがあります。例えば、車の死角に入ってしまったとき、突然強風が吹いたとき、溝にタイヤを奪われたときなど想定していなかったことが起きたときです。

私は、隊員の方の問いかけによりこのようなヒヤリとするときを含む、自転車に乗っているときはいつ何時事故が起ころうともおかしくないことを知りました。少しでも事故を防ぐために私が出来るのは交通規則を守ることです。1年間で自転車事故により、愛知県

内で命を落とされる人は29人もいます。数字で表すと想像しにくいですが、自分の身の周りの人に置き換えると、その数字の大きさがよく分かります。命を落とした方のうち、ヘルメットをかぶるという交通規則を守っていた人は29人中2人しかいないのです。ヘルメットをかぶっていれば亡くならなかった人もいたはずです。

私たちが交通規則を守ることで事故を防ぐことができたり、助けられる命が増えたりします。私は、事故は誰にでも起こりうることであり、自転車に乗るということは命を落とす危険があるということを理解することが大切だと思います。

まわりの人を悲しませないためにも、大切な命を奪ってしまわないためにも、私は交通規則にのっとり、安全を心がけ自転車に乗りたと思います。誰かの命を奪ってしまったからでは後悔してもしきれません。私は、事故により、悲しむ人がいないような未来にな

ることを願っています。

また、私は、そんな事故で悲しむ人がいないような未来をつくるためにみんなのできることを考えました。1つ目は、道路標識について知ることです。

私たちは交通安全教室の中で止まれる標識の意味を詳しく教えていただきました。止まれるの標識があったら一時停止をし、左右、後ろの確認を行います。止まれるの標識は文字で大きく書かれているので大抵の人は一目で意味を理解することができます。しかし、標識の中には勘違いしやすい意味を持つものや、一目では分かりにくい意味を持つものがあります。標識の正しい知識があれば、正しく事故を防げと思います。なので、私は交通事故を防ぐために道路標識について知ることが大切だと思います。

2つ目は、自転車や自動車の特性を知ることです。私は保健体育の授業で、車両の特性について学びました。空走距離や制動距離、また、自動車の死角や内輪

差などについてです。私は、自動車は曲がるとき、前輪より後輪が内側を通る内輪差について知り、今までは車が曲がるときに前の方で停止していましたが、今は少し後ろで停止するようにしています。車が曲がっていくとき、この知識を知ることができてよかったなと思います。他の特性も、乗車中に思い出し、気を引きしめることが多くあります。私は自転車や自動車の特性を知ることによって防げる事故が増えると思います。

1人が事故を防ごうと頑張っているにも限界があります。1人ひとりが事故を防ぐために心がけ、事故により悲しむ人がいないような未来になりますように。

